

KJQ.PAPER

〈心の基礎〉リサーチ

〈心の基礎〉教育を学ぶ会メンバー

会長 菅野 純 綿井雅康 加藤陽子 藤井 靖 桂川泰典 原口和博 中村 有

第 8 号

2017 August

編集長 加藤陽子（十文字学園女子大学 准教授）

発行人 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 事務局長 斎藤一夫

事務局 株式会社実務教育出版 ☎163-8671 東京都新宿区新宿1-1-12 TEL 03-3355-0921 kjq@jitsumu.co.jp

〈心の基礎〉教育を学ぶ会 第5回研究会

「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」では、毎年8月に研究会を開催しています。研究会では、学校現場の課題を事例として取り上げ、『KJQマトリックス』を課題解決にどのように活用していくか、学級・クラス経営や生徒指導へのKJQの活かし方などについて学びを深めています。

今号は、第5回研究会から「高等学校での活用事例」をご紹介します。

第5回研究会 プログラム

2016年8月18日 実務教育出版セミナールーム
司会・進行／十文字学園女子大学教授 綿井雅康

13:00～13:05 (5分)

●開会のあいさつ

早稲田大学名誉教授 〈心の基礎〉教育を学ぶ会会長 菅野 純

13:05～14:10 (65分)

●ガイダンス 初歩から学ぶKJQ

早稲田大学准教授 桂川泰典

14:20～15:40 (80分)

●ケース検討会（高等学校の事例で検討）

[コーディネーター] 明星大学准教授 藤井 靖

[ケース報告者] 東京都立高等学校教諭 津田弘毅

[ケース検討者] 十文字学園女子大学准教授 加藤陽子

〈心の基礎〉教育を学ぶ会講師 原口和博

15:50～16:20 (30分)

●実践報告 KJQを取り入れた

自尊感情・自己肯定感を育む教育活動の展開

[発表者] 立川市立立川第六中学校主任教諭 石黒哲也

立川市立立川第六中学校主幹教諭 加藤佳津雄

16:20～17:00 (40分)

●講演 学校教育に活かすKJQ 菅野 純

※所属は研究会当時のもの



「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」は、『KJQマトリックス』に携わる研究者と教育の現場にいらっしゃる先生方との研究会です。子どもたちが学校生活の中で伸び伸びと学習し、人間関係を築きあげ、社会性を確立するための根元となる〈心の基礎〉を共に学び合うことを目的とし、継続的な研究会、会報の発行を行っています。志のある方であれば、どなたでも参加可能です。

高等学校におけるKJQの活用事例

～ケース検討会から～

ケース報告者

東京都立高等学校教諭
津田弘毅先生

ケース検討者

十文字学園女子大学准教授 加藤陽子先生
(心の基礎) 教育を学ぶ会講師 原口和博先生

◆ケース事例の報告

1 高3男子・18歳・Aの生徒像

Aは常に学年トップの成績を誇り、資格取得への意欲も高い生徒です。また、同好会部長や生徒会役員を務めるなど充実した学校生活を送っています。生活態度も真面目で、体調不良以外の遅刻・欠席もありません。5人兄弟の次男で、離婚後も同居を続ける父母と一緒に暮らしています。普段の様子を見る限り、家族との信頼関係は築けているようです。

一方、入学当初から電車に乗る際に腹痛などを起こす傾向があり、母親はAの精神面を心配していました。

高3になり、Aは学校斡旋による就職を希望していました。内心は父親の会社に縁故入社し、電気工事関係の仕事に就きたいと思っていたようでしたが、「一

度は未知の世界に挑戦してもらいたい」という母親の意向に沿う形で希望を変えたようです。

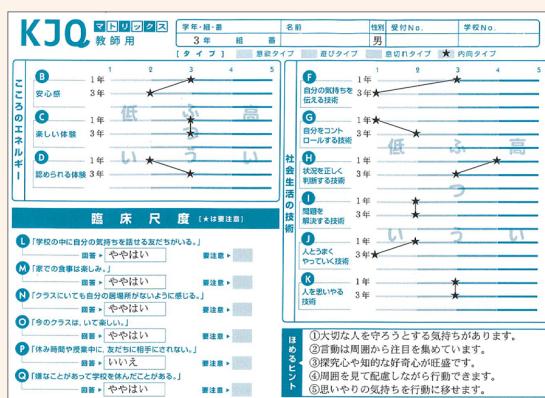
2 Aの所属する学級の様子

とりわけ指導が困難な生徒もいない、落ち着いたクラスです。いくつかのグループに分かれているもののグループ間の交流がないわけではなく、協力し合える穏やかなクラスと言えます。

3 『KJQマトリックス』の結果から

上述の1のような生徒像から、担任は、Aは「意欲タイプ群」に属すと考えていました。しかし、高1・3年次の結果は共に「内向タイプ群」。優秀であるのに「自己」の得点が低く、友だち間トラブルもないのに「友だち」に関する項目の得点が低く、担任の目から見えるAと結果には大きなズレと違和感がありました。

A君の教師用シート



A君の回答状況シート

KJQマトリックス 回答状況 教師用

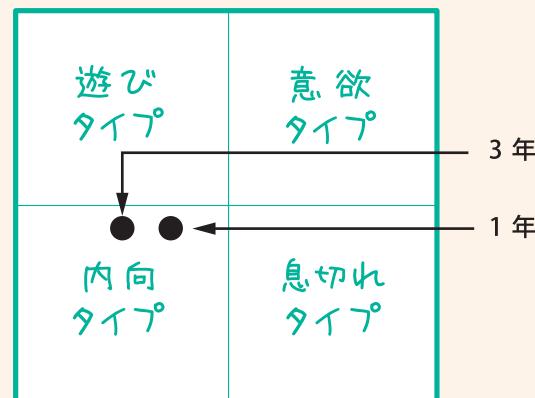
1. KJQの57の質問項目は、①学校での先生との関係(先生)、②学校での友だとの関係(友だち)、③家庭との関係(家族)、④社会と自分とのかかわり(社会)、⑤現在の自分の居場所(居場所)、⑥自分の未来(未来)、⑦自己的力(自己)の7つの分野から構成されています。このシートでは、今、どこが充実しているのか、どんなことにつまずいているのか、などを分野ごとに検討することができます。

2. 質問に対する「いいえ」回答を「1」、「ややいいえ」回答を「2」、「ややいい」回答を「3」、「いいえ」回答を「4」と表示しています。回答方法が不適切な場合は「-」と表示しています。

3. 質問が否定的な内容(選択項目)の場合、質問文の後に(+)がついています。

4. 「番号」で□は男子、○は女子、△は性別不明です。

A君のマトリックス上の位置



年	組	名	性別	友だち	家族	社会	居場所	未来	自己
3年	3	2名							
1年	1	2名							

4 KJQ 後の担任との面談

以後は、面談でAが語った概要です。

コミュニケーションに関して：基本的に人と関わりたくない。コミュニケーションに苦手意識があり、話すのをあまり好きではないが、話しかけられたら応答はする。知らない人が近くにいると、ストレスを感じる。人混みも好きではない。

本人の認識：学力上位だが、自分に対する自信はない。周囲の人からほめられると、嫌な気持ちになる。

不適応を起こす場面：登校時、電車を利用する場合は調子が悪く、人が多いのは苦手と感じる。

5 担任の感じる課題

いつものAの人物像と結果とのギャップは気になります。また、電車に乗ると体調不良を起こすなど、A自身ストレスを感じている部分もあるようです。これらの課題を考えていくにあたり、KJQをどう読み解き、活かすとよいのでしょうか。

◆ケース検討者からのコメント◆

◇原口先生からのコメント

津田先生は、「意欲タイプ群」と思っていたA君が「内向タイプ群」の所属であったことに違和感を感じたと話していました。離婚後も父母が同居しているという複雑な家庭環境にあるA君ですが、KJQの「家庭」の項目の回答状況は特別悪くありません。また学校生活では積極的に活動し、友人からの人望があるように見えているのに、回答では「友人」に関連する項目の得点が低く、自信がないと話しています。

私はこの事例で、A君は複雑な家庭状況の中で「親の期待に応えたい」気持ちと「もっと自分を出したい」気持ちの葛藤で苦戦しているように感じました。それが学校生活の様子と回答結果の違いにつながっているでしょう。KJQを実施したことでのA君の苦戦していることが観察とは違う結果として現れ、違和感になっています。今後の関わりとして、言葉かけはもちろんですが、まずはA君の思いを受け止め、一緒に課題を整理し葛藤を減らしたいものです。温かい優しい気持ちで見守り、エネルギーを補給してあげましょう。



◇加藤先生からのコメント

KJQを使うメリットとは、気づかないところに客観的に気づけることです。大人側の思い込みを排し、KJQから違和感を見つけて探るよう心がけてほしいと思います。

私が感じた違和感は2つ。1つは生徒像と結果との違和感です。これは津田先生もお話をされました。もう1つが、2回の結果を比べたときの違和感で、「学年が上がるとスキルも伸びるのが一般的なのに、なぜ下がっているの?」というものです。本当はのびしろがあるのにうまく伸びてないような、足踏みしているもどかしさをシートから感じました。A君は何でも自分でこなすタイプで、家庭でもあまり手をかけられずに成長したのではないかと推察されます。「スキルは教えればないと身につかない」ものです。当たり前のレベルから手をかけて教える、スキルを再確認する。何となくではなく、本人も手ごたえを感じるよう確実にスキルアップさせたい。スマールステップで、見える支援をしてほしいと思います。A君の場合は、「こころのエネルギー」を満たすこともちろんですが、スキルを上げるのが急務と感じます。



津田先生の感想 学校では優等生で、問題行動を起こさず、友人ともうまくやっているA。KJQをきっかけに彼の異なる面に気づくことができ、普段の様子からは見てこないところが見えてくるKJQの効果を実感しました。今回、貴重なコメントをたくさんいただきました。今後の指導に活かしていきたいと思います。

『KJQマトリックス』ワークブックを活用しよう！



『KJQマトリックス』とは、子どもの心の状態を調べる調査と、子ども自身が自分の心を育てる方法を学ぶワークブックがセットになった、心理教育教材です。

調査結果と一緒に届けるワークブックは、児童生徒が、調査結果を振り返りながら KJQ の考え方を理解し、KJQ で測定した「こころのエネルギー」や「社会生活の技術」について学習することができる教材です。このワークブックを学習することで、調査から見えた自分の課題を修正するだけでなく、自分をパワーアップさせたり長所を伸ばしたりすることも可能となります。

小学校版・中学校版・高校版を分けて、成長に合わせたシチュエーションを設定しており、各学習が身近な例によって実感できるようになっています。いずれも B5 判・8 ページです。

授業や面談といった場面でぜひご活用ください。

「こころのエネルギー」を高めるワーク

「こころのエネルギー」という考え方を理解したり、本人用シートの結果を転記しながら自分自身で自分のエネルギーを高める方法を学習します。

1. あなたの結果を理解しよう「こころのエネルギー」

★「こころのエネルギー」とは？

「元気」や「自信」などがあるで、「やる気」をむかせる必要なものです。エネルギーがなくほどどななりも起きさせません。人にとって非常に大事な力です。つまり、あなたが動かす力がエネルギーだと感じてください。

KJQ では「こころのエネルギー」を 3つに分けて考えます。

安心感
楽しい体験
認められる体験

2. 「こころのエネルギー」を高めよう

① 「こころのエネルギー」の量を観察

あなたの「こころのエネルギー」どれくらいあるか？ シート用紙だけ印字書いてみよう。

安心感 高めよう！ 楽しい体験 認められる体験

② 「こころのエネルギー」を増やす素材を見つけよう

例参考に、次の①の下部欄に記入してみよう。

1. おもしろい本
2. おもしろい映画
3. おもしろい歌
4. おもしろい話
5. おもしろい絵本
6. おもしろいおとぎ話
7. 自分得意の好きなこと

③ 「こころのエネルギー」を増やすポイント

「安心感」を 増やすには？
「楽しい体験」を 増やすには？
「認められる体験」を 增やすには？

これらの質問に対する回答を記入して、最後に「こころのエネルギー」を高めよう！と記入してください。

KJQ 本人用シート

1. あなたの結果を理解しよう「こころのエネルギー」

2. 「こころのエネルギー」を高めよう

3. 「こころのエネルギー」って何だろう？

4. 「社会生活の技術」って何だろう？

5. まとめ

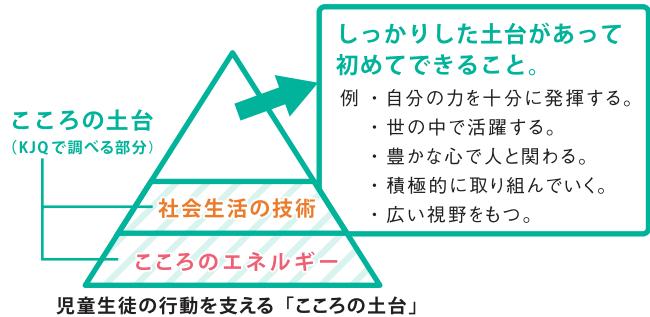
（左側）

（右側）

（下部）

中学校版ワークブック・2~3 ページ

『KJQマトリックス』で調べること



児童生徒の行動を支える「こころの土台」

こころの土台 穏やかな気持ちで人と関わったり意欲的に物事に取り組むために必要な児童生徒の行動を支えている基盤のことで、「こころのエネルギー」と「社会生活の技術」の2つの部分からできています。

「こころのエネルギー」

- ・元気のもとややる気のもととなるもの
- ・自己発揮の原動力となるもの

3つに分けて考えます。

安心感 楽しい体験 認められる体験

「社会生活の技術」

- ・集団場面や社会的場面で自分の力を発揮するための力
- ・他人と折り合いをつけて生きるための力

6つに分けて考えます。

自分の気持ちを伝える技術 問題を解決する技術
自分をコントロールする技術 人とうまくやっていく技術
状況を正しく判断する技術 人を思いやる技術

ワークブックを活用している学校の声を紹介します

【活用の仕方】

ワークブックを使った授業を、「教師用マニュアル」にある指導案通りに行ってています。学級活動の時間で行っていますが、1時間ですべては終わらないので、生徒理解や生徒指導に熱心な担任は、朝の会や帰りの会、または学年裁量の時間を使って最後まできちんと指導をしています。(中学校)

初めは「教師用マニュアル」の指導案に沿った授業をしていましたが、自分のクラスの生徒を想定した指導案にバージョンアップさせました。(中学校)

児童が書き込んだワークブックは、担任が内容を確認しています。一人ひとりにコメントをして返却している担任もいるようです。(小学校)



活用し終わって花マルのついたワークブックを夏休み前の三者面談で保護者に見ていただき、学級担任が見つけた子どもの「よさ」を保護者に伝えています。(中学校)

自分のクラスでは、「社会生活の技術」の中の「状況を正しく判断する技術」が身についていない生徒が多いと感じたので、「状況を正しく判断する技術」の部分を中心にワークブックを使った授業を行いました。さらにワークブックの応用問題（自分のクラスに起こりやすい問題）を作成して、授業で実施しました。(高校)

普段気になっている生徒の個別面談に、KJQの結果とワークブックを活用しました。「社会生活の技術」中の「問題を解決する力」が低く、生徒も悩んでいるようだったので、「問題を解決する力」を高めるワークと一緒に取り組みました。(高校)

【感想】

児童が書き込んだワークブックを読むと、子どもが今考えていることが見えてきます。児童を理解する貴重な機会になっていると思います。(小学校)

結果を見るだけでは「ふーん」という感想で終わってしまうことが多いのですが、結果を振り返ることができるワークブックがあることで、生徒は自己理解を深めることができていると思います。(中学校)



本校では1～3年生で年に1回『KJQ マトリックス』を実施するので、生徒は何回か同じワークをやることになりますが、繰り返すことによって日常生活の中に「こころの土台」「こころのエネルギー」といったKJQの考え方方が浸透しているように感じます。(中学校)

「こころのエネルギー」のワークは自分のよいところを自分で確認できるので、生徒は自己肯定感を高めることができているようです。(中学校)

ワークの内容が難しすぎず、取り組みやすいところが多いと思います。(中学校)

「社会生活の技術」を高めるワークを行うことで、少しずつですがあいさつが増えたり友だちへ思いやりのある言葉かけができるようになりました。学校の雰囲気が明るくなり、物事に意欲的に取り組む生徒が増えてきたような気がしています。(中学校)

自分のよいところを書き出すワークがあるので、就職や進学時の自己PRにも活用できそうです。(高校)

「社会生活の技術」は、学校生活の中だけではなく、社会で活躍する上で重要なスキルなので、高校生のうちから意識させスキルアップさせておくことは生徒の将来にプラスに作用していると思います。(高校)



日々研究

report of research

投稿を募集しています!
事例研究や実践ノートなど何でも結構です。投稿していただける方はメール（kjq@jitsumu.co.jp）にてお知らせください。

KJQ をよりよい心理検査へと進化させるべく、研究会のメンバーは
日々研究を重ねています。このコーナーではその研究成果を報告します。

中学校期における KJQ 得点の 「見逃せない変化」とは?

【研究の背景】

『KJQ マトリックス』では、中学校期、多くの生徒は学年の上昇に伴って「精神的充足」「社会的適応力」の得点が低下する可能性がある（例えば、猪熊ら、2012）。積極的な支援・指導を行うことで学年上昇による得点の低下を防いた事例報告も多数あるが（例えば、増田、2015）、そのような教育体制が取りにくい現場では、得点の低下が避けられないという現実もある。

KJQ を実践する学校にとって、この得点低下をどう理解するかは悩ましい問題である。1 年次より 2 年次の「精神的充足」「社会的適応力」の得点が下がっていた場合、はたしてこれは一般的な低下と理解してよいのか、それとも通常は起こりにくい「要支援」の低下であると理解すべきか、これまでその基準は曖昧であった。もちろん、一般的な低下だからといって看過してよいわけではないが、学力向上、部活動、生徒指導と日々の業務に追われる教師にとって、KJQ 得点を理解する際に緊急性の高さを見極めたいというニーズがあることは理解できる。支援・指導の効果はあったのか? も気になるところである。

そこで本研究は、中学校期の KJQ において通常起こりやすい得点の変化（低下・上昇）と「見逃せない変化」の基準点を統計的に明らかにすることを目的とした。

表：KJQ 各得点の経年推移と統計的指標

	1st Test Mean(SD)	2nd Test Mean(SD)	Difference 2nd-1st Mean(SD)	ICC	SEM	MDC	Cronbach's <i>α</i>
1 年 ↓ 2 年	精充 10.72 (2.47)	10.71 (2.52)	-0.01 (2.10)	0.78	1.16	3.21	0.78
	安 3.61 (0.93)	3.58 (0.99)	-0.11 (0.88)	0.74	0.50	1.39	0.74
	楽 3.65 (0.97)	3.58 (0.97)	-0.06 (1.00)	0.64	0.58	1.61	0.64
	認 3.34 (1.10)	3.48 (1.11)	0.15 (0.95)	0.77	0.53	1.48	0.77
	社適 21.40 (4.61)	21.79 (4.58)	0.39 (3.57)	0.82	1.95	5.40	0.82
	気伝 3.55 (0.97)	3.62 (0.99)	0.07 (0.92)	0.71	0.52	1.45	0.72
	統制 3.54 (0.97)	3.53 (1.01)	-0.01 (0.94)	0.71	0.53	1.47	0.71
	判断 3.73 (0.94)	3.84 (0.92)	0.11 (0.89)	0.70	0.51	1.42	0.70
2 年 ↓ 3 年	解決 3.55 (1.09)	3.69 (1.08)	0.14 (1.04)	0.69	0.60	1.67	0.70
	上手 3.42 (1.03)	3.48 (1.02)	0.07 (0.84)	0.79	0.46	1.29	0.79
	思い 3.61 (0.97)	3.61 (0.97)	0.01 (0.89)	0.73	0.50	1.39	0.73
	2nd Test Mean(SD)	3rd Test Mean(SD)	Difference 3rd-2nd Mean(SD)	ICC	SEM	MDC	Cronbach's <i>α</i>
2 年 ↓ 3 年	精充 10.71 (2.52)	9.79 (2.61)	-0.91 (1.90)	0.80	1.13	3.14	0.84
	安 3.58 (0.99)	3.26 (1.06)	-0.43 (0.82)	0.76	0.51	1.40	0.81
	楽 3.58 (0.97)	3.12 (1.07)	-0.46 (0.99)	0.63	0.62	1.72	0.70
	認 3.48 (1.11)	3.45 (1.01)	-0.03 (0.87)	0.80	0.48	1.32	0.80
	社適 21.79 (4.58)	19.68 (4.66)	-2.11 (3.36)	0.79	2.13	5.91	0.85
	気伝 3.62 (0.99)	3.26 (0.95)	-0.36 (0.83)	0.73	0.50	1.39	0.77
	統制 3.53 (1.01)	3.22 (1.02)	-0.31 (0.93)	0.70	0.55	1.52	0.74
	判断 3.84 (0.92)	3.38 (0.97)	-0.45 (0.88)	0.65	0.56	1.55	0.72
3 年	解決 3.69 (1.08)	3.25 (0.97)	-0.44 (0.87)	0.73	0.54	1.49	0.78
	上手 3.48 (1.02)	3.24 (1.01)	-0.24 (0.86)	0.76	0.49	1.37	0.78
	思い 3.61 (0.97)	3.27 (1.04)	-0.34 (0.88)	0.72	0.53	1.46	0.76

【方法】

対象 関東甲信越の公立中学校 4 校、私立中学校 1 校において、1 年次～3 年次まで同時期に 3 回縦断的に測定された KJQ データ（サンプル数=749）。

時期 2013 年 4 月～2015 年 12 月

測度 「精神的充足・社会的適応力」評価尺度（菅野グループ、2011）：57 項目 4 件法。

分析 1 年次～2 年次、2 年次～3 年次を比較。級内相関係数 (intraclass correlation coefficient : ICC)、測定の標準誤差 (standard error measurement : SEM)、検出可能な最小限変化 (minimum detectable change : MDC) を算出した。MDC とは「通常よく起こる誤差（測定のブレ）」の範囲を決める統計指標であり、この範囲を超えるブレは通常は起こりにくい「見逃せない変化」と考えることができる。

【結果と考察】

表より、中学校 1～3 年にかけて、「精神的充足」「社会的適応力」は概ね減少すること、特に 2～3 年にかけては減少幅が大きいことが明らかとなった。「精神的充足」の MDC は 3.14～3.21、「社会的適応力」の MDC は 5.40～5.91、各下位特性の MDC は 1.29～1.72 であったことから、「精神的充足」は ±4 以上、「社会的適応力」は ±6 以上、下位特性は ±2 以上の変化があった時、通常は起こりにくい「見逃せない変化」であることがわかった。

BOOK GUIDE

研究会のメンバーが学校の先生や生徒におススメしたい本を紹介するコーナーです。今回は葛貫庸子先生（松実高等学園初等部校長代行）が紹介します。



私の支援する児童の多くは不登校経験があります。本学園に見学に来た時（不登校状態である時）、入学当初は心のエネルギーが枯渇状態である児童が多いと感じています。ご家族の背中に隠れ、怯えながら話を聞いている児童もたくさんいました。

心の土台（心の基礎）を育むことは、子どもたちの人生を変えてしまうくらい大切なことであると日々実感し実践しています。

そこで、本学園の児童が大好きな本を紹介したいと思います。「認めてくれる」「大切に思ってくれる」そして「自分は自分でいいんだ」というメッセージの込められた本です。この本は、子どもたちの心の土台を育むカリキュラム実践の手助けをしてくれる本でもあります。児童の感想には「自分の思い込みで自分をつくっているのかな」「友だちのいいところをたくさん見つけてあげたい」などとありました。マイナスなことばかりを考えず、なりたい自分のイメージを想起することの大切さに気づける本です。



やったできたね イルカくん

ローリー・ライト 著
マックス・スターズク 絵
大前泰彦 訳
ミネルヴァ書房刊
定価 1,944 円
2014年3月発行

私のbeing

リレー
エッセイ
第8回



「こころのエネルギー」を補給する要素として「楽しい体験」がありますが、その一つとして「目的に何もしない」、つまり「being（ただ、いること）」はとても大事です。人は日頃「doing（何かをすること）」から成り立っていますが、それ以外の一見無駄に見える時間も、実は必要なものなのです。このコーナーでは、研究会のメンバーが日頃どのように「何もしないで」こころのエネルギーを注ぎ足しているのか、紹介してもらいます。第8回は、最近“67歳の手習い”でドラムを始めたという〈心の基礎〉教育を学ぶ会会長の菅野純先生（早稲田大学名誉教授）です。

子どもの頃の「夏休みの研究」の延長で、大人になってからも自分なりに「夏休みの研究」を続けている。これまで取り組んだ研究テーマは、「サンカ」「潜水艦」「軍装」「ノモンハン事変」「津山三十人殺し」「永山則夫」「連合赤軍」「地名『別所』」……などである。それぞれについて動機や自分なりの研究意義はあるのだが、それを話し出すと「人格が変わる」と言われるので、ここではふれない。7年前から「こおりやま文学の森資料館」で年1回、文学講座の講師をしている。今は1年かけてこの講座の準備をすることが私の being となっている。

第1回のテーマは「家庭の幸福とは——庄野潤三の文学」、第2回は「父子関係から見た堀辰雄」、第7回目の今年は「生活者としての作家・詩人——黒田三郎を中心に」。主な聴講生は60代から80代の“元・文学少年少女”。異なる専門分野にちゃっかり入ってしばし「もう一人の自分」を楽しむ。密やかで、少し後ろめたい being である。

編集後記



年に1回行っている研究会も回を重ね、今号では第5回の様子をお届けしました。参加者の方の「こころのエネルギー」を高めることができるような研究会をめざし企画を考えています。内容についてご要望がございましたら事務局までお寄せいただければ幸いです。

（事務局 檜山）

第9号は2018年8月発行予定です。